

氏名	磯 嶋 浩 二
学位(専攻分野)	博 士(医 学)
学位授与番号	博 乙 第 2405 号
学位授与の日付	平成 4 年 3 月 28 日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	気管支喘息における喀痰中のCreola bodyに関する研究 第1編 気管支喘息患者喀痰中におけるCreola bodyの臨床的意義 についての検討 第2編 モルモットの慢性喘息モデルによるCreola bodyの形成機 序についての検討
論文審査委員	教授 太田 善介 教授 辻 孝夫 教授 赤木 忠厚

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

気管支喘息患者喀痰中に特異的に出現するCreola body (CrB) の臨床的意義を検討するために、CrB陽性群と陰性群を対比させ、喘息の各病態とCrB出現の関連性を検討した結果、以下の成績を得た。CrBは気管支喘息に特異的に出現し、喀痰中好酸球出現頻度の高い症例でかつ喘息発作が長期間続く場合や、非アトピー型、血清IgE値の低い症例でその出現率が高かった。一方CrBの出現と、喀痰中好中球出現頻度、現年齢、重症度、気道過敏性とは明らかな関連が認められなかった。次にCrB形成機序を組織学的に解明する目的で、感作したモルモットに繰り返し抗原を吸入させ毎日気道反応を惹起させる慢性喘息モデルを作成し、その気道局所を検討した結果以下の結果を得た。すなわち、モルモット慢性喘息モデルの気管支肺泡洗浄液中にも、ヒト喘息患者におけるCrBに類似した気管支上皮細胞の集塊 (CrB) が認められた。モルモットの肺組織所見では、気道反応日数の多いものほどCrBの形成を示唆する所見に富んでおり、また、末梢気管支に比べ中枢側気管支の方がCrBの形成を示唆する所見に富んでいた。以上より、連続する気道反応と肺組織への好酸球浸潤の結果、好酸球から放出される組織障害因子により主に中枢側の気管支上皮が剥離され、次いで気管支の攣縮による物理的因子の影響を受けて特徴的なCrBが形成されるものと想定された。

論文審査の結果の要旨

本研究は気管支喘息患者喀痰中に特異的に出現するCreola body (CrB) の臨床的意義を検討するために、CrB陽性群と陰性群を対比させ、喘息の各病態とCrB出現の関連性を検討した結果、CrBは気管支喘息に特異的に出現し、喀痰中好酸球出現頻度の高い症例でその出現率が高いことを示した。また連続する気道反応と肺組織への好酸球浸潤の結果、好酸球から放出される組織障害因子により主に中枢側の気管支上皮が剥離され、次いで気管支の攣縮による物理的因子の影響を受けて特徴的なCrBが形成されるものと想定された。これらは臨床的に価値ある業績であり、よって本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。